

# 高等学校・特別支援学校 7月16日(火)開港記念会館

## 各グループで話し合われたこと まとめ



### 協議① いじめそのものについて考える「なぜいじめは起きるのだろうか」

- ・いじめと認識していない「加害者」、SOSの出し方がわからない「被害者」、直接手は出さずいじめを楽しむ「観衆」見て見ぬふりをする「傍観者」。この4つの原因が複数あると、いじめが成立してしまうと考えました。
- ・対人関係がうまく築けない場合やコミュニケーションが不足していると、相手の言動の意図を理解できずに傷つけてしまうことがあるかもしれない。また、他者の特徴や背景の理解が不十分だと、故意でなくても差別的な発言や行動に繋がることがあると考えました。
- ・自分自身の不満やストレスを他者に向けて発散してしまい、いじめになるケースもありそうです。

### 協議② いじめの未然防止について考える「自分にできることは何だろうか。」

- ・実現は難しいかもしれませんが、定期的に自分自身の個性を出せる日を作るというアイデアが出て、とても興味をもちました。
- ・ほとんどの学校がやっていた、目安箱の実施をしたいと思います。
- ・目安箱を実物で置くのではなくデジタル化をすることで手軽に質問できるし、気を遣わなくてよいので、良いアイデアで参考にしたいと思いました。
- ・誰でも気軽に参加しやすいイベントを増やしたり、pink dayの様にバラバラだけどひとつ全体で共通認識出来るようなものを取り入れたいと思いました。
- ・特定の行事用の意見箱の設置やいじめの定義を生徒たちに提示する動画の作成、テーマを設定して、それに対する意見を生徒が自由に記述できる自由帳の設置、生徒が先生により簡単に相談できるようネット上のチャットツールの導入の打診。
- ・ピンクシャツデーを広める、目安箱とは別に相談できる期間を作る。
- ・誰かの良いところを紙に書いて貼り付けられるような掲示板を作る、という取り組みは興味深いものでした。さらに、どのクラスが一番多く人の良いところを見つけられるか、など競争するとみな積極的にクラスメイトの良いところを探すようになり、クラスの雰囲気がよくなるのではないかと考えました。

## 各グループで話し合われたこと まとめ



協議①「身近にどんないじめがあるか。また、いじめにつながりそうなことはどんなことがあるか。」

- ・いじめには、「直接的ないじめ」（暴力や暴言、無視など）と「間接的ないじめ」（SNS上での言い合いやSNS上の仲間外れ、物を隠すなど）の2種類がある。
- ・「いじめの種」（いじり）というものが存在し、とても気づきにくいことである。最初は友達同士のふざけ合いから始まり、それがエスカレートしていくといじめにつながっていくのではないかと。
- ・いじめの加害者の心理として、嫉妬心や仕返し、ストレス発散などが考えられる。また、相手に対する偏見があり、それが個人から集団と広がってしまった結果、無視や仲間外れなどが起きている。
- ・よかれと思って言った言葉が、相手を傷つける内容になってしまうこともある。また、SNS上で言葉の解釈の仕方、発信者と受信者で捉え方が異なることがあり、それがきっかけで人間関係が崩れていくことが考えられる。

協議② いじめをなくすために大切なことを考え、「いじめをなくすために、自分たち一人ひとりができること」

- ・相談できる雰囲気、相談しやすい空気を作るために、いじめを「知る」「考える」「話し合う」という機会を大切にしたい。同時に、相談できる「人」「場所」「時間」など作っていきたい。「いじめはいけないこと」という風土を築くことができれば、「いじめはよくない」と互いに伝えやすくなったり、「やだ」と言いやすくなったりするのではないかと。
- ・あいさつやレクリエーションなど他者と関わる機会を通して、自他の価値観が異なることに気付いたり、多様性を認め合うことができたりするのではないかと。また、他者のよさを見つける機会があることで、先入観をもちにくくすることにつながり、友達に対する偏見が減っていくと考えられる。





# 泉区 8月28日(水) 緑園学園

## 各グループで話し合われたこと まとめ



### 協議① 「いじめをなくすために、私や学校、中学校ブロックでできること」について

- ・学校によって、いじめを未然に防止するために挨拶運動をしている学校もあれば、いろいろなものを組み合わせていた学校もあり、様々な意見を聞くことができました。また、「～をしないようにしましょう」というマイナスの考え方ではなく、「～してみよう」というプラスの考え方をした、というところが自分の中学校と共通していて、共感できる部分が多くありました。
- ・会議に参加する一人一人が、「学校より良くしたい」「いじめを無くしたい」という思いでいじめ未然防止に真剣に向き合ってきたからこそ、意見を共有する際に共感できる部分が多かったと思う。この会議を通じて得られたことを学校に持ち帰って、これからのより良い学校づくりに活かしていきたいと思った。

### 協議② 「いじめ防止対策推進法」に示されている『いじめの定義』を読んで、どんなことを感じたり、考えたりしたか

- ・「いじめ」についてみんなで考え、自分の学校でできる取組のイメージをさらに広げることができて良かったです。改めて「いじめとはなにか」考えてみると意外と想像することが難しかったです。きっと私のように「いじめとはなにか」はっきりとした答えを出せる人は少ないと思ったので、まずはみんなでいじめとはなにか、もう一度考えることがいじめを起こさない事に繋がると感じました。
- ・いじめの定義などの理解を改めてできたし、他校の取組が参考になって貴重な時間だった。
- ・横浜子ども会議を通して、他校や他ブロックで行っている「いじめ未然防止」の為の活動を知ることが出来ました。また、それをもとに自分の学校で行っている活動と比較することで、今の活動を改善できるか等を考えることが出来ました。また、ブロック以外の学校と話し合いが出来る場を設けていただいたおかげで、「いじめの定義」について考える時間では、より多くの視点からの意見を聞くことが出来ました。
- ・他の学校で違う意見がたくさんあったからそれを大切にしたいと思った。

神奈川県

8月28日(水)

神大寺小学校

### 各グループで話し合われたこと まとめ



#### 協議① 「誰にとっても居心地のよい学級・学校とは？」

～いじめをなくすために一人ひとりができること～

- ・人によって感じ方が違うことに気付いた。相手のことを考えることが一番大切だと思う。
- ・いじめが起きてしまったら、見逃さないようにする。自分がいじめを受けてしまったら「やめて」と言ったり、相談できる友だちに相談したりする。
- ・あいさつをすると元気になる人がいた。あいさつを大切にしたい。
- ・環境づくりは大切だし、やっていきたいけれど、結局は、いじめをなくそうという思いをもつことが大切だと思った。

#### 協議② 「学校に戻って、どのように具体的な取組につなげていけるだろう？」

- ・ただやるのではなく、何でやるのか（目的）を伝えてやっていきたい。
- ・自分の学校のよいところをたくさん見付けられたので、今日の話し合いを踏まえて、居心地の良い学校をつくろうと思った。
- ・集会を開いてみんなに伝えたい。みんなが「学校に来てよかった」と思える学校にしたい。
- ・小学校でやっていた「ふわふわ言葉」を久しぶりに聞いた。中学校の活動につなげていきたい。
- ・グループを変えて話し合いをしたので、いろいろな考えを知れた。学校全体に伝えていきたい。
- ・価値観や考え方の違いで「いじめ」になることがあるので、劇などで学校に伝えたい。





## 各グループで話し合われたこと まとめ



協議① いじめって何だろう。身近ないじめにはどんなものがあるのだろうか。なぜいじめは起きるのだろうか。

- ・ 暴言、暴力、悪口、相手が嫌がることや、自分のストレスを相手にぶつけることがいじめだと思う。
- ・ 加害者側もいじめているということに気づかないこともあり、観衆も気づかないこともあると思う。
- ・ 親に怒られたり、テストの点数が悪かったりして、自分に余裕がなくなったときにいじめが起きるのではないかと思う。
- ・ 相手が自分より下に見えてしまい、何をしてもいいと思ってしまう。
- ・ 相手との価値観の違いを認められないことからいじめが起きてしまう。

協議② いじめの未然防止として何が大切だと考えますか。自分にできることは何だろうか。

- ・ クラスの人の良いところをどんどん見つけていく。違う意見を認め合うこと。
- ・ 一人にさせないというのが大事。一人になったりすると標的になりやすい。孤立させない。
- ・ いじめについて考える時間をとり、みんなで考え直すことが必要だと思う。
- ・ こういう話し合いでいじめの考えがかわる。みんなで話し合うことがすごくいいことがみんなと話し合っただけでわかった。
- ・ いじめについて話し合っただけで、深く考える機会を与えられているけれど、ここで話し合った考え方を学校に伝えていくことが良い方法ではないかと思う。



# 鶴見区 8月28日(水) 鶴見小学校

今年度は、「発表形式から意見交換（話し合い）へ転換」ということで会議を3部構成で行いました。

話し合い① 中学校ブロックで「ブロック子ども会議の内容」についての振り返り。

話し合い② 他の中学校ブロックの人と情報共有。「つながる、広げる、いじめ未然防止の輪 ～一人ひとりができること～」について協議。

話し合い③ 中学校ブロックに戻り、「話し合い②」の内容をもとに「学校に戻って、どのように具体的な取組につなげるか」考えたことを伝え合う。



話し合い② いじめ未然防止に、一人ひとりができること、学校でできることが何だろうか。

- ・普段から一人ひとりが心に余裕をもつこと、寛容な気持ちをもつことが大切だと思う。
- ・挨拶や言葉遣いなど、日頃からやっていることを大切にしていくことで、クラスや学校の雰囲気よくなり、お互いが仲良くなることでいじめが減っていくと思う。
- ・委員会だけが行う挨拶運動ではなく、学校全体を巻き込むことで、いじめ未然防止の輪を広めていく必要がある。
- ・学校をあげて、ピンクシャツデーの取組を続けていく。
- ・一人ひとりがいじめの本質を知ることが大切で、委員会が中心になってその時間をつくっている。

話し合い③ 各学校で、どのように具体的な取組につなげることができるだろうか

- ・他の中学校ブロックで行っていた、多言語での挨拶運動や、今日あったよかったことを書く「ニコニコツリー」を自分のブロックでも取り組んでいきたい。
- ・様々な意見を聞く中で、一人ひとりが自分の言動を振り返り、多様性を尊重することが、クラスの雰囲気づくりにつながっていくと思うと感じた。
- ・多くの学校ブロックで、挨拶運動や、フワフワ言葉運動を行っていて、コミュニケーションの大切さを改めて感じた。同学年だけでなく、学年をこえたコミュニケーションをつくることで、学校全体でその雰囲気をつくっていききたい。





磯子区

8月29日(木)

森東小学校



### 中学校ブロックごとの発表



### 各グループで話し合われたこと まとめ



#### 協議① どんなことが「いじめ」になるのか

- ・「同じ」言葉でも捉え方が違う、いじりが「いじめ」になってしまうこともある。
- ・(いじめは)したくないけれど、友だちや場の流れで・・・。
- ・ふざけがエスカレートしてしまうケースもあると思う。
- ・相手がいやがることは、ささいなことでもダメ！

#### 協議② 「いじめ」はよくないとほとんどの児童生徒がわかっているはずなのに、なぜ、「いじめ」をしてしまうのだろうか。

- ・遊び半分、ふざけ半分でやっってしまう。
- ・「いじめ」をしている自覚がない。
- ・ノリで参加してしまったりしていることもあると思う。
- ・価値観の違い、苦手意識とかもあると思う。
- ・集団でやっっていて、誰も止めないから「悪いことではない」と思っってしまう。



## 各グループで話し合われたこと まとめ

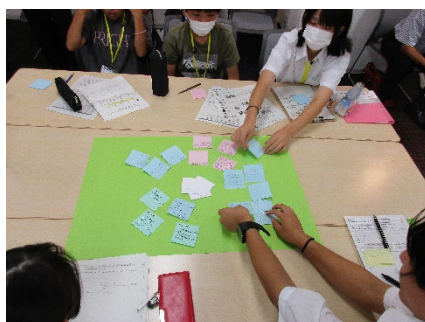


## グループ協議 「いじめをなくすために、私ができること」について

- ・意見箱を設置して、みんなの意見を集めている。
- ・積極的にあいさつをして、普段からコミュニケーションを大事にしていると、いじめ防止につながるのでは？
- ・ゴミを拾ったり、花壇を整備したりして、普段から環境を整えておくことも大事。
- ・雰囲気づくりが大事、全員が話すような機会をもつ。同じ意見でも OK だけど、「前の人と同じ」ではなく、自分の言葉で話すとか、全員が一言でも話せるようにしている。
- ・居心地の良い学校にするためにはどうしたらよいかなど、全校朝会で取り上げた。

## 各ブロックで協議 グループで話し合ったことを伝え合い、各ブロックでできる取り組みや全校への伝え方を話し合おう

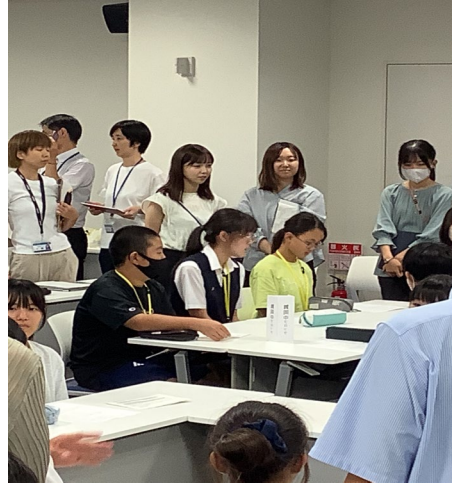
- ・どの学校もいろいろな取組をしている。うちの学校でも取り組んでみよう。
- ・いじめ防止のポスターを作って貼っているけど、みんな見ていないかも。目につくところに貼るとか、工夫してみてもいいかも。
- ・いじめ防止をテーマにしたすごろくなどで、アピールしている。
- ・放送委員会が放送で呼びかけるとかアピールの方法を工夫してみる。
- ・創作劇を通じて「スマホで悪口ダメ！」を訴えたら、みんなに伝わった。





# 戸塚区 8月29日(木) 戸塚区役所大会議室

## 各グループで話し合われたこと まとめ



協議 「いじめ」の事例についてどう考えるか、何ができるかを考える

**事例** AさんBさんCさんは、普段から仲の良い友達で、3人でよく遊ぶ関係でした。ある日の放課後、Aさんは同じクラスのXさんとSNS上でやり取りをした際、「BさんとCさんの3人で遊んで楽しかった」と書き込みました。Xさんは同じクラスのZさんと話をした際、Zさんに対しAさんとSNS上でやり取りをしたことを伝えました。BさんとCさんは、Zさんから「AさんがXさんに対し、BさんとCさんのことを色々話しているらしいよ」と伝えられました。

BさんとCさんは、Aさんが自分たちの悪口を言っていると勘違いし、Aさんが見ることができないSNS上のグループを作り「Aさんは調子に乗っている」と書き込みました。次の日からAさんはBさんとCさんから話しかけられなくなりました。その後AさんはXさんとZさんを含む他のクラスメイトからも話しかけられなくなり、一人で過ごすことが多くなりました。Aさんは「学校に行きたくない」というようになりました。

- ・学校でよくあること
- ・SNSはもっと注意深く使っていないといけない
- ・伝え方が曖昧で勘違いが生まれたかもしれない
- ・聞いたことを全部信じてしまった。確認することができたのではないか
- ・本当かどうかわからないことを話してはいけない。SNSで発信することはなおさら注意が必要
- ・自分がもしこのクラスの一員だったらどうするか→話をちゃんと聞いて本当かどうか確認する、先生に相談する、味方をしてあげる人みんなで声をかけていく、でも実際にこのうちの誰かだったらどうしているか分からない

# 中区 8月29日(木) 中区役所

## 各グループで話し合われたこと まとめ

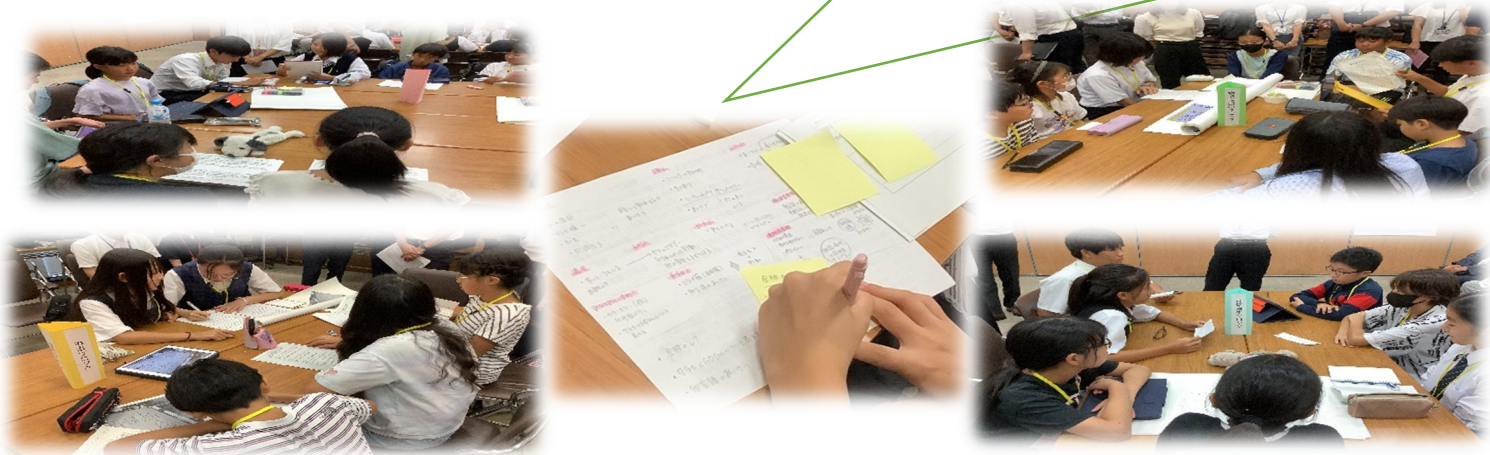


### 実践発表：各ブロックで話し合ったこと、取り組んでいること

- ・いじめが起きるきっかけについて話し合い、あいさつ運動や、相手の良いところを見つけたりコミュニケーションを取ったりするために、レクを行っている。
- ・「ピンクシャツデー」の意義をブロックで共有し、Tシャツやリボンなど、ピンク色のものを身に付けて広める取り組みを進めている。
- ・友達の良さを見つけるための活動として、「やさしさBOX」を行っている。
- ・SNSでの適切なコミュニケーションの在り方について考え、全校に広めるようにしている。

### まとめ：お互いの発表を聞いて、今後の学校での取組に生かせること

- ・いじめ対策で一番大事なことは、日常から考えること。また、行動に移すことが大切だと思った。
- ・私は相談係を学校で始めていきたいと思いました。今までは先生にしか悩み事を相談できなかったため、先生に相談しにくいことも、生徒同士なら相談しやすくなると思います。
- ・この会議を通して、自分だけでなく、いろいろな人の立場で考えることが大切だと思いました。
- ・自分の学校では、行っていないことでも、できそうなことが多いと感じた。特にピンクシャツデーは、男女ともに身に着けられるようなものと考えていきたいと思った。





# 保土ヶ谷区 8月29日(木) 特別支援教育相談センター

## 各グループで話し合われたこと まとめ



### 協議① つながる、広げる、いじめの未然防止の輪 ～一人ひとりができること～

- ・あいさつ運動+1を進めている。「いい天気だね」など+αを加える。今日はあの子に話してみようというきっかけになり、いろんな人と話している。
- ・いじめの定義を考え、理解してもらうために、生徒会がポスターや動画を作成している。夏休み明けに動画を利用し、クラスでグループワークをする予定。
- ・小さな悪口でも積み重なるといじめのタネになる。タネをつくらないようにする。
- ・SNS等、こういう言い回しをすると相手を傷つけてしまわないか考えてみる。
- ・「コミュニケーションを取って笑顔を増やそう」を学校のテーマにしているので、それを進める。
- ・ふわふわ言葉をカードに書いてもらい、校内放送で流している。

### 協議② 学校に戻って、どのように具体的な取組につなげられますか。

- ・SNSでのいじめ防止に向けて、道徳の授業を生徒が企画することを考えている。先生の授業より伝わりやすいのではないかと思う。
- ・あいさつ運動+1などを進めて、話すきっかけを増やし、あまり話したことがない人とのコミュニケーションを増やす。
- ・挨拶をしない人がいるという意見もあったが、挨拶をしなくてもばれないからではないだろうか。それよりも悲しいとか寂しい雰囲気をつくらなければ、そもそもいじめが起こらないと思う。ピンクシャツウィークなど、いじめストップの意思表示ができる機会をつくり、みんなに考えてもらうきっかけにする。



# 緑区 8月29日(木) 横浜市立中山小学校

## 各グループで話し合われたこと まとめ



協議① 中学校ブロックでは、どのような話し合いを行ったか。

- ・ いじめにはどんなものがあるのか、なぜいじめが起こるのか、いじめを起ささないためにどうしたらよいかを話し合った。「自分が正しいと思わない」「お互いを知る」という意見が出た。
- ・ いじめを止めるためにできることを話し合った。直接止めるのが難しくても、その子に寄り添ったり、先生に言ったりはできる。

協議② いじめにはどんなものがあると思いますか。他にも小学校と中学校の違いなど。

- ・ いじめの基準は人によって違うのではないかと。小学校は直接のものが多い。中学校は LINE など、人が見ていないところで起こるものが多い。
- ・ あだ名が良いと思っている人と嫌な人がいる。
- ・ 一人ひとりのいじめの考え方が違う。面白いと思っていたことが、ある子にとって嫌なことである。

協議③ いじめを防ぐためにどんなことができると思いますか。

- ・ ものを取る、隠すは犯罪につながる。いじめはどういうことにつながるのかを知ることが必要。
- ・ 信頼関係がないから陰口や悪口を言ってしまう。挨拶など、関わりがあると防げる。
- ・ 帰り学活でいいことを見つけをしてシールを貼ったり、運動会の練習でソーラン節を教え合ったりすることもいじめの対策になっていた。こういう身近なところにいじめを防ぐ取組が潜んでいる。

全体感想

- ・ いじめを止めるのは難しいと思っていたけれど、話し合いをして止められると思ってきた。
- ・ 自分の学校だけではない新しい意見があった。それは明日から意識すればできることだった。活用して有効な取組をしていきたい。





# 西区 9月25日(水) 西公会堂第1会議室

## 各グループで話し合われたこと まとめ



### 協議① 各ブロックの実践発表を聞いて、自分たちの取組に取り入れることができそうなものは…

- ・心の環境をよくすることと「ポカポカ言葉」を増やしていきたい。
- ・いじめ未然防止のための短編ドラマやポスターを作る活動はできそうだな。
- ・いじめの定義をみんなが知ることって大切だよな。
- ・中学校で作ったものと小学校で作ったものを交換して見てみる・やってみる。
- ・いろいろな言語であいさつ運動をすることはできそうだ。



- ・一人ひとりの意識が大切。相手の立場に立つことや偏見をなくすこと。
- ・全員が輪に入れる、全員の価値観に触れる機会として全校でのアンケート（総選挙）をやっているのがいいな。

### 協議② 各ブロックの発表を聞いて、いじめをなくすために自分たちには何ができるだろうか…

- ・小学校と中学校では、考えやいじめだと思えることが全然違うので、意見交換がとても大切だと思いました。
- ・ブロックだけでは思いつかなかった考えや方法を知って、自分たちの取組をよりよいものにしていきたい。



- ・「子ども会議」の時だけでなく、小中学校で関わる機会をつくれればよいと思いました。
- ・普段関わる人が少ない人とも自然とあいさつができそうなので、「多言語活動」の取組がいいと思いました。
- ・いろいろな学校の取組を聞いたので、足りなかった発想などを補うことができた。
- ・コミュニケーションを増やすことで、いじめを減らすことができるということを改めて知ることができました。

